

日本の博物館を造り支えてきた
博物館の理論・思想と
実践の歴史を一望する
基本資料



博物館が組織的な取り組みを開始した1920年代から50年代までを主な対象に、理論書・啓蒙書などの単行本、パンフレット、戦前の海外植民地の館を含む案内書、統計資料などを

網羅的に復刻

残部 数组

(2024.1)

博物館・美術館・資料館の
多様な機能を再認識！

公開・展示・収集・陳列・保存
管理・運営・建築・設備
学校教育・社会教育・研究……

博物館基本文献集

監修 伊藤寿朗

全21卷・別卷1

(大空社 1990-1991 復刻刊行)

學術資料出版

大空社出版

資料に命いのちを
作品に心こころを
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

博物館基本文献集

監修 伊藤寿朗 (大空社 1990-91 刊)

全 21 巻・別巻 1

刊行にあたって

(1990 年)

伊藤寿朗 (東京学芸大学助教授)

日本の博物館は、明治維新とともに生まれ、近代日本とともに歩んできた。

その歴史は、国策に翻弄され、戦争で破壊し尽くされた、苦難の道のりであった。

制度の保障も、資金の裏付けも、国のシンボルである帝室博物館などを除けば、なかった。その中にありながら、博物館が主張し続けたのは、観光・娯楽施設ではない、ほかに解消されることのない、『目に訴へる教育機関』(棚橋源太郎著)としての自らの存在意義であった。

その主張が実り、博物館が公共機関として社会的に承認されたのは、一九五一年の博物館法成立であり、日本に博物館が登場して、実に七九年後のことであった。

『博物館基本文献集』は、博物館が組織的な取り組みを開始した一九二〇年代末から一九五〇年代までを主な対象に、理論書、啓蒙書などの単行本、パンフレット、戦前の海外植民地の館を含む案内書、統計資料などを網羅し、構成した。

いま、博物館はブームである。小規模な館を含めると四五〇〇館、年間入館者数は約三億人と、全映画館の入場者数の二倍以上にも上る。子どもや若者、主婦の人気は高く、国民の生活の中に定着してきている。

さらに、生涯学習の気運の高まりの中で、市民のアマチュアリズムの舞台として、新たな期待を寄せられている。

本書は、その足もとを問い直すための、初めての資料集である。博物館関係者のみならず、近代史、教育史を学ぶ人々にとっても、歴史の空白を埋める道標となることを確信している。

* 推薦します

歴史を再認識し、新しい博物館を創造するために

野村東太 (横浜国立大学教授・全日本博物館学会会長)

うっとうしい梅雨の続いていた或る日、戦前から敗戦直後の博物館資料を複製出版したいが推薦文を書いて欲しいとの電話があった。内容を聞くと、博物館創生期の第一人者棚橋源太郎先生の著書や文部省統計資料が中心で、伊藤寿朗先生が提供された資料とのこと、私も大変興味を持ち原著を讀ませて頂くことにした。大学が夏休みに入った暑い日に、出版社の方が原著を届けて下さり、その日から二週間かけて、これらを全部讀ませて頂くことになった。

戦前から敗戦直後にかけて出版されたこれらの資料は、日本のみならず世界の博物館の歴史を知る上に貴重な文献で、しかも、今日の博物館を理解する上の原点が在るように思われた。特に戦前棚橋先生が指摘された、在るべき博物館活動や管理運営の基本理念、さらに博物館建築の企画・建設上の基本姿勢には、我々が学ぶべき多くの点がある。

戦後55年、博物館法が制定され、学芸員制度も発足し、統計資料に見るごとく博物館の建設量も増し、一見豪華な建築も目に入る。しかし、博物館活動の社会教育的使命の確立、学芸員や職員の質向上や活動の活性化、学校教育をはじめ類似文化活動との分担・連携、管理運営の経済的・人事的な自立、博物館建築の基本的機能の確保等など、今日抱える問題点の多くが、50年、60年前に原著で指摘された内容と基本的に大差なく、たいして進歩していないことを痛感せざるを得ない。

現在、博物館活動や博物館建築には問題が山積し、今や改新の曲がり角にきている。しかし、その多くは博物館関係者だけで解決できる問題ではない。この期に当たり、博物館関係者のみならず行政・文化・教育・建築・展示関係者もふくめ、過去の事実を再認識し、再出発することがきわめて大切であると思う。今回の複製版が多くの人々の目に触れることを期待したい。

博物館ブームを根底から問い直す

小川利夫 (愛知大学教授・名古屋大学名誉教授)

待望の『博物館基本文献集』が、最適な編者の多年にわたる労苦の結晶として、茲にようやく公刊されることになった。喜びにたえない。

伊藤寿朗さんは、十余年ほどまえに、若き博物館研究者の理論リーダーとして共編著『博物館概論』をまとめあげられたが、おそらく本基本文献集の骨格は、その頃すでに構想されていたにちがいない。その構想がさらに吟味され、あたためられ、ふくらまされて、茲に博物館については「初めての資料集成」が公刊されることになった。その構成は、理論書、外国紹介書、啓蒙書、さらに、パンフレット、ガイドブック、調査等、博物館の理論と実践の全面にわたって、入念に組み立てられえいる。

そこには、今日の博物館ブームを「その足もとから問い直す」とともに、市民の、市民による博物館づくりの実践と理論を創造しようとする伊藤さんの意欲と願望が脈打っている。それだけに、本文献集が博物館関係者のみならず社会教育関係者、さらに広く教育と文化、生涯学習の民主的な発展を求める人々の手によって吟味され、大いに活用されることを切望する。

*日本で博物館が組織的な取り組みを開始した1920から1950年代までを主な対象に
理論書、啓蒙書、紹介・解説・案内書（戦前の海外植民地の館を含む）
教育・行政機関による統計資料・施設一覧・講習会資料などを
網羅的に収集復刻

- 1 眼に訴へる教育機関 棚橋源太郎（1930）
- 2 郷土博物館 棚橋源太郎（1932）
- 3 仏蘭西博物館制度の調査 文部省（1929）
- 4 新博物館態勢 藤山一雄（1940）
- 5 博物館 浜田青陵（1929）
- 6 博物館講習会要項 文部省（1929）
年表 我国に於ける郷土博物館の発展（稿）
大日本聯合青年団郷土資料陳列所編（1936）
米国内各博物館の教育事業に就いて 星合正治（1932）
- 7 商品陳列所綜覧（第二回版） 商品陳列所聯合会編（1933）
- 8 欧米博物館の施設 後藤守一（1931）
- 9 常置観覧施設一覧（昭和四年） 文部省普通学務局
教育的観覧施設一覧（昭和五～一五年） 文部省社会教育局
教育的観覧施設一覧（昭和一七年） 文部省社会教育局
- 10 常置教育的観覧施設状況（大正五年十二年） 文部省普通学務局（1927）
- 11 世界の博物館 棚橋源太郎（1947）
- 12 新しい博物館 その機能と教育活動 木場一夫（1949）
- 13 博物館学綱要 棚橋源太郎（1950）
- 14 見学・旅行と博物館 木場一夫ほか（1952）
- 15 博物館教育 棚橋源太郎（1953）
- 16 博物館・美術館史 棚橋源太郎（1957）
- 17 博物館 棚橋源太郎（1949）
- 18 博物館のはなし 青木国夫（1957）
- 19 わたしたちの歴史研究 博物館 関忠夫（1957）
- 20 文化観覧施設一覧（昭和二十三年三月三十一日現在） 文部省社会教育局
昭和二十六年一月二十日現在 公私立博物館等調査表 文部省
博物館調査（昭和28年5月1日現在） 文部省
- 21 観光資源要覧 第四編・陳列施設 運輸省観光局（1957）
昭和二七年度学芸員講習講義要綱 文部省
学芸員講習講義要綱（昭和二八年） 文部省社会教育局

別巻

博物館学総論・各巻解説 他

伊藤寿朗先生のご逝去を悼む：『博物館基本文献集』の完結にあたって（野村東太）

I 博物館学総論（126頁）

鶴田総一郎（『博物館学入門』〔理想社、1956・昭和31年〕より・付「執筆した経緯」）

II 各巻解説（169頁）

棚橋源太郎著作解説〔1・2・11・13・15～17巻〕（君塚仁彦）/3巻（山崎晶子）/4巻（後藤和民）/5巻（黒尾和久）/6巻（北村敏・山崎）/7巻（小野一之）/8巻（武士田忠）/9・10巻（伊藤寿朗）/12・14巻（小野）/18・19巻（伊藤暢直）/20・21巻（伊藤寿朗）/21巻（伊藤寿朗・柘植信行）

病床の傍らで聞いたこと：伊藤寿朗先生と『博物館基本文献集』（君塚仁彦）

博物館関係単行書目録（志澤政勝編）（14頁）

「博物館学の父・育ての親」先駆者
柵橋源太郎（1869～1961）の著作7編
を収録（1・2・11・13・15・17巻）

1 眼に訴へる教育機関

柵橋源太郎 著

【宝文館、1930・昭和5年】 449頁

「博物館・動物園・水族館等が、学校教育・社会養育及び学芸の研究に欠くべからざる重要な機関」と宣言する「日本初体系的博物館論」▽機関発達の歴史／博物館の種類・職能／地方・郷土・教育・学校・児童・戸外博物館／動物園水族館／物品の蒐集製作整理保存／博物館の陳列・説明案内／博物館と学校教育／研究機関としての博物館／博物館の建築



2 郷土博物館

柵橋源太郎 著

【刀江書院、1932・昭和7年】 274頁

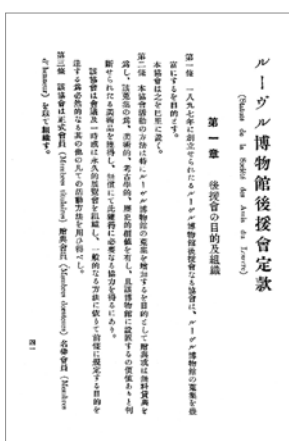
市町村の地方・郷土色、民俗・土着的特色を持つ機関の様々な例を国内外に見る。▽郷土博物館の本質と職能／海外（独逸・英国・海外大都市）の博物館／本邦の郷土博物館／郷土博物館の建設維持／郷土博物館の事業（研究・学校教育・社会教育）

3 仏蘭西博物館制度の調査

文部省編

【文部省、1929・昭和4年】 182頁

社会教育局設置とともに国は本格的に博物館政策に着手、先進国の実態調査が始まる。▽国立博物館法人組織に関する大統領令／国立博文館並ループル学校の組織／ループル博物館後援会定款／国立博文館聯合の会計規則／1928年度国立博物館年報

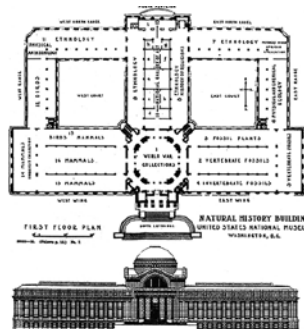


4 新博物館態勢

藤山一雄 著

【「東方国民文庫23」満日文化協会、1940・昭和15年】 246頁・折2

満洲国文化運動の一環として刊行されたシリーズの一冊。博物館を民族・文化的視点で広く紹介する啓蒙書。▽世界と日本の博物館をゲーテ博物館／ベルリン国立民俗博物館／北方博物館／慶州博物館／日本民芸館／エジプト博物館／シェークスピア博物館／フランス国立博物館／北米合衆国国立博物館／国立中央博物館大経路展示場／民俗博物館について／満洲国の博物館



5 博物館

浜田青陵 著

【「日本児童文庫54」アルス、1929・昭和4年】 240頁

著名な考古学研究者・浜田（1881～1938）による古典的名著。研究・教育機関としての博物館を。▽博物館とは・世界各国の博物館／考古博物館（考古学、石器時代、日本先史時代・原始時代室、朝鮮満洲の古墳室）



Text describing the museum's role and history.

6 博物館講習会要項

文部省編 【文部省、1929・昭和4年】 40頁

年表 我国に於ける郷土博物館の発展（稿） 大日本聯合青年団郷土資料陳列所編「大日本聯合青年団、1936・昭和11年」40頁
米国内各博物館の教育事業に就いて（東京科学博物館報告 第二輯）星合正治著「科学博物館事業後援会、1932・昭和7年」89頁

美術館ト美術教育

国民生活ニ於ケル美術

- 一、文化資料、世界美術
- 二、文化資料、世界美術
- 三、文化資料、世界美術
- 四、文化資料、世界美術
- 五、文化資料、世界美術
- 六、文化資料、世界美術
- 七、文化資料、世界美術
- 八、文化資料、世界美術
- 九、文化資料、世界美術
- 十、文化資料、世界美術
- 十一、文化資料、世界美術
- 十二、文化資料、世界美術
- 十三、文化資料、世界美術
- 十四、文化資料、世界美術
- 十五、文化資料、世界美術
- 十六、文化資料、世界美術
- 十七、文化資料、世界美術
- 十八、文化資料、世界美術
- 十九、文化資料、世界美術
- 二十、文化資料、世界美術



Text describing the book's content and its use in education.

7 商品陳列所綜覧

(第二回版)

商品陳列所聯合会 編「商品陳列所聯合会、1933・昭和8年」184頁

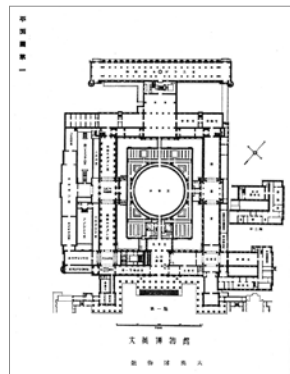
国内外40施設の沿革、事業内容総覧。



8 欧米博物館の施設

「帝室博物館、1931・昭和6年」126頁＋図版65頁
博物館の種類／建物／陳列室／蒐集・陳列・收藏博物館の事業

後藤守一 著



9 常置観覧施設一覽 (昭和四年)

文部省普通学務局 (文部省) 編 13頁

教育的観覧施設一覽 (昭和五・十五年) (毎年)

文部省社会教育局 (文部省) 編 計約240頁

教育的観覧施設一覽 (昭和十七年)

文部省社会教育局 (文部省) 編 35頁

施設名	所在地	種類	備考
東京市立博物館	東京市	総合博物館	
大阪市立博物館	大阪市	総合博物館	
名古屋市立博物館	名古屋市	総合博物館	
京都府立博物館	京都市	総合博物館	
兵庫県立博物館	神戸市	総合博物館	
愛知県立博物館	名古屋市	総合博物館	
岐阜県立博物館	岐阜市	総合博物館	
静岡県立博物館	静岡市	総合博物館	
富山県立博物館	富山市	総合博物館	
石川県立博物館	金沢市	総合博物館	
福井県立博物館	福井市	総合博物館	
山梨県立博物館	山梨市	総合博物館	
長野県立博物館	長野市	総合博物館	
新潟県立博物館	新潟市	総合博物館	
秋田県立博物館	秋田市	総合博物館	
岩手県立博物館	盛岡市	総合博物館	
宮城県立博物館	仙台市	総合博物館	
山形県立博物館	山形市	総合博物館	
福島県立博物館	福島市	総合博物館	
茨城県立博物館	水戸市	総合博物館	
栃木県立博物館	宇都宮市	総合博物館	
群馬県立博物館	前橋市	総合博物館	
埼玉県立博物館	さいたま市	総合博物館	
千葉県立博物館	千葉市	総合博物館	
東京都立博物館	東京都	総合博物館	

施設名	所在地	種類	備考
東京市立博物館	東京市	総合博物館	
大阪市立博物館	大阪市	総合博物館	
名古屋市立博物館	名古屋市	総合博物館	
京都府立博物館	京都市	総合博物館	
兵庫県立博物館	神戸市	総合博物館	
愛知県立博物館	名古屋市	総合博物館	
岐阜県立博物館	岐阜市	総合博物館	
静岡県立博物館	静岡市	総合博物館	
富山県立博物館	富山市	総合博物館	
石川県立博物館	金沢市	総合博物館	
福井県立博物館	福井市	総合博物館	
山梨県立博物館	山梨市	総合博物館	
長野県立博物館	長野市	総合博物館	
新潟県立博物館	新潟市	総合博物館	
秋田県立博物館	秋田市	総合博物館	
岩手県立博物館	盛岡市	総合博物館	
宮城県立博物館	仙台市	総合博物館	
山形県立博物館	山形市	総合博物館	
福島県立博物館	福島市	総合博物館	
茨城県立博物館	水戸市	総合博物館	
栃木県立博物館	宇都宮市	総合博物館	
群馬県立博物館	前橋市	総合博物館	
埼玉県立博物館	さいたま市	総合博物館	
千葉県立博物館	千葉市	総合博物館	
東京都立博物館	東京都	総合博物館	

10 常置教育的観覧施設状況 (大正五年十二月)

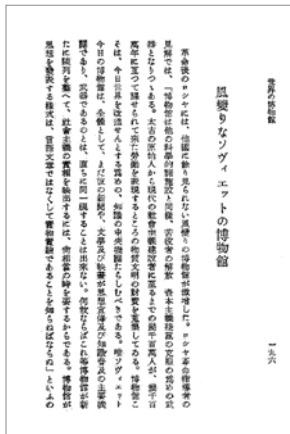
文部省普通学務局 編「文部省、1927・大正6年」309頁
各省総督府都府府経営陳列館・動植物園／府県都市町村団体及個人経営陳列館・動植物園及水族館

施設名	所在地	種類	備考
東京市立博物館	東京市	総合博物館	
大阪市立博物館	大阪市	総合博物館	
名古屋市立博物館	名古屋市	総合博物館	
京都府立博物館	京都市	総合博物館	
兵庫県立博物館	神戸市	総合博物館	
愛知県立博物館	名古屋市	総合博物館	
岐阜県立博物館	岐阜市	総合博物館	
静岡県立博物館	静岡市	総合博物館	
富山県立博物館	富山市	総合博物館	
石川県立博物館	金沢市	総合博物館	
福井県立博物館	福井市	総合博物館	
山梨県立博物館	山梨市	総合博物館	
長野県立博物館	長野市	総合博物館	
新潟県立博物館	新潟市	総合博物館	
秋田県立博物館	秋田市	総合博物館	
岩手県立博物館	盛岡市	総合博物館	
宮城県立博物館	仙台市	総合博物館	
山形県立博物館	山形市	総合博物館	
福島県立博物館	福島市	総合博物館	
茨城県立博物館	水戸市	総合博物館	
栃木県立博物館	宇都宮市	総合博物館	
群馬県立博物館	前橋市	総合博物館	
埼玉県立博物館	さいたま市	総合博物館	
千葉県立博物館	千葉市	総合博物館	
東京都立博物館	東京都	総合博物館	

11 世界の博物館

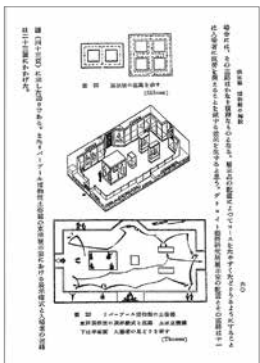
柵橋源太郎 著

「大日本雄弁会講談社、1947・昭和22年」216頁
活動的新式の博物館／異彩を放つ欧米の地方的博物館／偉人記念の博物館／一般に公開出来ない博物館／欧米の歴史博物館／ヨーロッパ諸国の工芸博物館巡り／世界の科学博物館／フランスの国立美術館／優秀作品揃ひの英国国立美術館／欧米の美術館巡々／ヨーロッパの芸能博物館／米国の大学博物館／英・蘭の植民博物館／風変わりなソヴィエットの博物館／日本の博物館



12 新しい博物館 その機能と教育活動

「日本教育出版社、1949・昭和24年」249頁
博物館の生い立ちと在り方／博物館の目的を達成する方法／施設、組織と連絡、教育活動、種類と分布／児童博物館／学校博物館、学校システム博物館／路傍博物館／博物館協会



施設名	所在地	種類	備考
東京市立博物館	東京市	総合博物館	
大阪市立博物館	大阪市	総合博物館	
名古屋市立博物館	名古屋市	総合博物館	
京都府立博物館	京都市	総合博物館	
兵庫県立博物館	神戸市	総合博物館	
愛知県立博物館	名古屋市	総合博物館	
岐阜県立博物館	岐阜市	総合博物館	
静岡県立博物館	静岡市	総合博物館	
富山県立博物館	富山市	総合博物館	
石川県立博物館	金沢市	総合博物館	
福井県立博物館	福井市	総合博物館	
山梨県立博物館	山梨市	総合博物館	
長野県立博物館	長野市	総合博物館	
新潟県立博物館	新潟市	総合博物館	
秋田県立博物館	秋田市	総合博物館	
岩手県立博物館	盛岡市	総合博物館	
宮城県立博物館	仙台市	総合博物館	
山形県立博物館	山形市	総合博物館	
福島県立博物館	福島市	総合博物館	
茨城県立博物館	水戸市	総合博物館	
栃木県立博物館	宇都宮市	総合博物館	
群馬県立博物館	前橋市	総合博物館	
埼玉県立博物館	さいたま市	総合博物館	
千葉県立博物館	千葉市	総合博物館	
東京都立博物館	東京都	総合博物館	

博物館基本文献集

監修 伊藤寿朗（大空社 1990-91 刊）

全 21 巻・別巻 1

日本の博物館を造り支えてきた
博物館の理論・思想と実践の歴史を一望

博物館が組織的な取り組みを開始した 1920 年代から 1950 年代
までを主な対象に、理論書、啓蒙書などの単行本、パンフレット、
戦前の海外植民地の館を含む案内書、統計資料など網羅的に復刻

*収録内容一覧 ↓ 3 頁
各巻概要 ↓ 4、7 頁



[体裁]
A5/B5 判
上製・クロス装

博物館基本文献集 全 21 巻・別巻 1 揃定価 218,900 円（本体 199,000 円 + 税 10%）

第 1 期 9 巻（第 1～9 巻）4-87236-154-7（大空社 1990 年 11 月）

定価 92,400 円（本体 84,000 円 + 税 10%）

第 2 期 13 巻（第 10～21 巻・別巻）4-87236-174-1（大空社 1991 年 7 月）

定価 126,500 円（本体 115,000 円 + 税 10%）

残部
数組

(2024.1)

(2023.10)

学術資料出版
大空社出版

東京都北区中十条 4-3-2
〒114-0032
TEL:03-5963-4451
FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp

お
取
扱
い